

円借款案件【事後モニタリング】 結果表

国名	インド
案件名	レンガリ灌漑事業（Ⅰ）（Ⅱ）（Ⅲ）

I. 案件概要

(1) L/A 承諾額	(Ⅰ) 77.60 億円 (Ⅱ) 63.42 億円 (Ⅲ) 30.72 億円
(2) L/A 調印日	(Ⅰ) 1997 年 12 月 (Ⅱ) 2004 年 3 月 (Ⅲ) 2010 年 3 月
(3) 実施機関	オディッシャ州水資源局
(4) 事業概要	インド東部オディッシャ州ブラマニ川流域に灌漑施設を新設し、水利組合の組織化や営農指導を行うことで、農業生産の増大・多角化を図り、もって対象地域の農民所得の向上に寄与するもの。

II. レビュー/モニタリング結果

(1) 事後評価における課題・指摘の概要
4.2.1 実施機関への提言 本事業においては、末端圃場内の整備及びポンプ灌漑の地域において未完成部分が存在する。マガルムハン・ポンプ灌漑においては、鉄道工事の作業進捗を確認しながら、さらなる遅延が発生しないよう関係機関との調整をされたい。水資源局傘下にある灌漑圃場開発公社（Command Area Development Authority: CADA）が担当する末端圃場の整備（2019 年 3 月に完成予定）とガダパルジャング・ポンプ灌漑（2019 年末に完成予定）についても、必要な作業を進めているが、未完成部分の早期完成に向けて、現状から遅延が発生しないよう対応していく必要がある。運営・維持管理の体制と財務においては特に、水利組合の体制強化や財源の確保は、将来的に本事業に期待された効果の発現のために重要となってくる。事業実施段階で、組合の能力強化を図る取り組みは行われてきたものの、さらなる組合の委員や組合員を対象とする能力向上の支援が望まれる。オディッシャ水資源局内の水利組合支援ユニットでは、同州の水利組合の格付けを行っているが、水利組合のパフォーマンスを評価するだけでなく、パフォーマンスに基づき、能力強化の研修を水資源局傘下にある水土管理研究所（Water and Land Management Institute: WALMI）と連携することで、需要に見合った支援を提供し、水利組合の体制や財務体質の強化、関係部局との連携強化を図ることが期待される。

4.2.2 JICA への提言

「4.2.1 実施機関への提言」にあるとおり、本事業の未完成部分については、JICA も引き続き進捗状況をモニタリングし、遅延が見込まれる場合や問題が発生した場合は、実施機関が州政府に働きかけられるよう、支援することが望まれる。本事業は有効性で設定された目標年に達しておらず、乾期の灌漑がこれから始まるものである。今後、計画どおりに灌漑が実施され目標達成に至るよう、中期にわたる効果の発現状況のモニタリングもする必要がある。

(2) 対応結果/今後の対処方針/事業目標の達成見込み

レンガリ灌漑事業フェーズ 2 の PMC (Project Management Consultant) のコンポーネントにレンガリ灌漑事業 (I) (II) (III) のサイトのモニタリングが含まれており、未完了部分であった末端圃場内の整備やポンプ灌漑は全て完成していることを確認。受益面積は、事業実施段階において発生した国道の拡張等の要因もあるが約 23,700 ha (計画値の約 9 割) を達成。

灌漑エリアに対して 69 の水利組合が組成され、灌漑路はこれら水利組合で全てカバーされている。WALMI (Water and Land Management Institute) が技術支援を継続しており、水利組合の運営維持管理ができていることを確認した。WALMI はフェーズ 2 においても水利組合への技術支援を継続しているため、フェーズ 2 での水利組合運営にかかる好事例や効果的な取り組みをレンガリ灌漑事業 (I) (II) (III) にも展開することを PMC から実施機関に提言している。

(3) 教訓

事業期間の積算時に、インド政府内の用地取得等の手続きについて十分な時間を見積もることが望ましい。また、灌漑路完成後、水利組合が持続的に運営継続できるようになるためには一定の期間を要するため、後続案件がある場合等では、完了済事業のモニタリングを含めるなど、中長期的にフォローアップ体制を整備することが望ましい。